

## 第62回試験研究成果発表会(作物)発表概要

【動画配信期間】 令和7年3月31日(月)～令和8年1月5日(月)

【場 所】 YouTube「千葉県公式セミナーチャンネル」

### 発表1 成果発表

ナガエツルノゲイトウの侵入水田における低密度管理体系の実証

水稲温暖化対策研究室 山本 一浩

南米原産の特定外来生物ナガエツルノゲイトウ(以下、本種)は、県内の水田や畦畔等に分布拡大しており、定着、まん延すると水稲の減収や収穫作業の支障等を引き起こします。さらに、本種は茎や根の断片から再生するため、刈払い機等による草刈りは発生を助長させる可能性があり、除草剤主体による防除が重要です。そこで、本種に登録のある除草剤を組み合わせた、水田内及び畦畔における本種を低密度で管理可能な防除体系について紹介します。



ナガエツルノゲイトウの群落



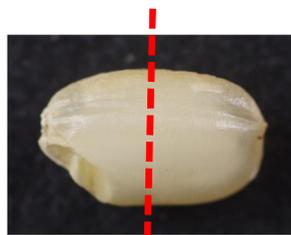
ナガエツルノゲイトウが畦畔一面に繁茂する様子

### 発表2 成果発表

千葉県の近年の気象条件下における水稲の生育、収量及び品質

水稲温暖化対策研究室 中村 充明

水稲の作柄安定を図ることを目的に、毎年同一条件で栽培して得られた調査データを解析して、水稲の技術情報を生産農家や関係機関に発信しています。近年は気候の温暖化により水稲の生育ステージが変動し適期管理が難しくなっています。また、高温による水稲の収量や玄米の外観品質の低下等が懸念されています。そこで、過去の気象条件の変化が水稲の生育、収量及び品質に及ぼす影響を紹介します。さらに、千葉県で開発した水稲生育予測システム「でるた」と玄米の外観品質低下を防ぐための生産安定対策についても紹介します。



乳白粒(上:全体、下:断面)



中干し時に溝切りを行った圃場

### 発表3 情報提供

#### 県内イネカメムシに対する有効薬剤と防除適期

病理昆虫研究室 元吉 真衣

イネカメムシは、出穂後の稲穂を吸汁することで斑点米を生じさせ、被害程度が高いと不稔を生じさせる害虫です。本種は、近年全国的に被害が拡大しており、県や地域により有効薬剤に違いがあることが報告されています。そこで、本県における有効薬剤について試験を実施し、有効薬剤と防除適期について明らかにしました。また、有効薬剤を使用し、現地イネカメ発生圃場での効果検証を行ったので、それらについてご紹介します。



イネカメムシ成虫(上)と幼虫(下)



イネカメムシの加害による斑点米

### 発表4 成果発表

#### 農業用コンテナと除湿機を用いた落花生の安定的な乾燥法

落花生研究室 津金 胤昭

煎り莢用の落花生は収穫後、畑で乾燥させます。しかし、近年、収穫期の天候は気温が高かったり、雨が多かたりすることが増え、カビが発生して品質が落ちてしまうことがあります。また、乾燥中に鳥獣害を受けることもあります。そこで、簡単なビニールハウスの中でも使える、農業用のコンテナと除湿機を使った新しい乾燥方法を開発しました。この方法を使うと、短い期間で安定的に落花生を乾燥させることができます。



高温多湿のため、野積み乾燥の間にカビが発生した莢



除湿機を用いたコンテナ乾燥の様子